

口腔がん：早期発見・治療はお金など全ての負担を軽減します —早期発見のためのテクニック—

講演要旨



東京医科歯科大学 名誉教授 **天笠 光雄**

口腔がんは、からだ全体のがんに占める割合は多くはありませんが、進行すると様々な障害に悩まされることがあります。

近年、拡大手術・即時再建手術などにより成績も向上していますが、手術後に後遺症が残ることもあります。早期発見治療は進行がん治療に比べてどれ程メリットがあるか、本講演ではその実態をお示し致します。なお、本講演で述べる口腔がんは、主に粘膜にできる扁平上皮癌とします。口腔がん全体の治療成績についてはおよそ55%～65%（5年累積生存率）であり、再建手術により術後の形態・機能はかなり温存されるようになりました。しかし、発音・嚥下等に少なからず問題もあります。

一方、早期口腔がんの治療成績は極めて

良好で（90%以上）、早期治療により術後の形態（見た目の形の）異常も、発音・嚥下などの機能障害も極めて少なく、術後には全く手術を行ったか分からない程に治癒いたします。また、早期発見・治療では手術侵襲（身体的負担）は進行がんに比べれば極めて少なく、また治癒する可能性が極めて高いことから精神的負担も少なく済みます。さらに手術治療に要する経済的負担（お金）はわずかです。以上のことから早期がん治療が進行がん治療に比べ多くのメリットがあります。これら早期口腔がんの症状や、早期発見のための方法についてもお示しします。最後に口腔がんの原因、予防方法についてもお話ししたいと思います。

略歴

- 1970年 東京医科歯科大学歯学部 卒業
- 1974年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科 修了
東京医科歯科大学 助手（口腔外科学第一講座）
- 1991年 東京医科歯科大学 教授（口腔外科学第一講座）
- 2001年 東京医科歯科大学大学院 教授（顎顔面外科学分野）
- 2011年 同上 定年退職
東京医科歯科大学 名誉教授
日高病院 歯科口腔外科・東京新宿メディカルセンター 歯科 顧問
- 1998年 NHK ラジオ第1 放送 健康相談員
- 2013年

専門医・指導医・学会活動

- 日本口腔外科学会 専門医・指導医
- 日本禁煙科学会 中級禁煙支援士
- 【会 員】
日本口腔衛生学会、日本渡航医学会
- 【功労会員】
日本癌治療学会
- 【名誉会員】
日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本口腔腫瘍学会、日本歯科薬物療法学会、日本顎関節学会、日本口蓋裂学会、日本顎変形症学会、日本口腔内科学会、日本唾液腺学会、日本顔面神経機能学会、日本歯科色彩学会 ほか